

「学びに向かう力」の育成～「主体的な学び」へ導く学習指導の工夫～

平成30年度 大津町小中学校共通実践事項

8月26日(月)

(1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示 (3)家庭学習の習慣化

徳淵

7月17日(水) 中研 1年1組 算数 増永先生 単元名：20までのかず

本時の目指す姿は「試行錯誤しようとする姿」でした。

導入部分では、海の生き物がいるイラストを提示し、「たこがいる!」「ヒトデだ!」など、自然なつぶやきでスタートしました。増永先生の「どれが一番多いかな?」という、何気ない発問で、子どもたちは「たこ」か「魚」と予想を立て、「数を数える」という本時の課題へと入っていきました。

展開部分の始めで、子どもからいろいろ出た数え方から、「ブロックを使う」を取り上げ、イラストのたこの上にブロックを置きました。子どもたちの「このままでは数えにくい」から、「ぱっとみてかすがわかる ぶろっくのならばかた を かんがえよう」というめあて(課題)が立ちました。

3つの並べ方を子どもたちから引き出し、議論していきました。ここが、本時の「試行錯誤する」中心場面でした。それぞれの良さを検討していくと…

①は2とびで数えやすい。②は「10と3で13」になる。③は「5と5で10。10と3で13」と子どもたちの発言から整理されました。

めあてに戻り、「ぱっとみて分かるもの」を考えると②か③になりました。2つに共通する見方・考え方である、「10と3で13」を整理し、まとめとしました。

事後研での助言者から指導事項

- ①本時では、目標はある程度達成されていた。試行錯誤することができていたので、試行錯誤した結果、子どもたちの納得があったのかを検討していくとよい。
- ②「ぱっと見て分からないよ。」という、発言があった。「10といくつが数えやすい」という感想を子どもが持てたかどうか。子どもがどんな感想を持つかを考えて授業をつくる必要がある。
- ③「ぱっと見て分かる」の主語は誰かがポイントだった。ブロックを並べる目的意識につながる。
- ④指導案に「数についての感覚を豊かにする」というキーワードがほしかった。

増永先生、授業ありがとうございました。